

ベガルタ仙台・ボランティア・ネットワーク（略称：VVN）活動報告

月日： 7月6日（日）

活動内容： フットサルフェスタ2003

参加人数： VVN及びボランティア9名

活動報告

朝からの曇り空、宮城スタジアムで開催されたワールドカップ宮城開催の1周年記念イベントのしめくくり、「フットサルフェスタ2003」は静かにスタートした。12チーム123名の選手の国籍は実に20ヶ国以上だという。これに対しボランティアは76名（名簿上）。組み合わせ抽選会、そして挨拶と諸注意に続きストレッチ、やわらかなピッチの上での体操は気分がいいもの。

ボランティアの主な業務は、得点掲示・コートごとのボール拾い・そして今回は映像（ビジョン）発信。イベントの規模こそ大きくはないがボランティアの活動範囲は確実に広がっている。10時、ほぼ予定通りにキックオフ、4つのコートで同時進行で予選がスタートする。ユニフォームを統一しているチーム、バラバラな服装だが思いのほか強いチーム、応援団のにぎやかなチームもあればもくもくと選手ばかりが戦っているチームもある。それでも予選はチーム間の力の差もあり、比較的静かにゲームが進む。前後半各10分。ハーフタイム2分は本当にあっという間。やがて昼前、ピッチの熱い戦いに刺激されて太陽が顔をだす。

昼食後はいよいよ決勝ラウンド、順位決定のための戦いは予選とは違いより激しさを増す。それは必ずしも上位チームの戦いだけではない。力の拮抗したチーム同士の戦いとなったことで下位チームのそれも、パワフルである。けれどチームによっては女性やこどもの姿もみられたのはほっとする光景。決勝は昨年も優勝のブラジルチームと日独友好協会（ドイツ）の対戦、すでに順位の決まった他のチームのメンバーもコートの周りを囲む。ボランティアもほぼ全員が見守る中、ブラジル優勢でゲームは進む。元ブラジルリーグでのプロもいるということで、シュートの勢いは強く激しい。実況中継もあり、ドラマチックにゲームは進みやや日が翳りはじめた時刻、長いホイッスルが響いた。3 - 0でのブラジルの連続優勝、輪を作って喜ぶ光景、すぐそばで同じユニフォームをきた髪の長い少女たちもはずんでいる。ケガ人がゼロというわけにはいかなかったが、選手もボランティアも何よりもワールドカップの決戦の舞台で一日をすごしたことは忘れられないものになったと思う。表彰式、全員での後片付け、いつの間にか日焼けした顔がピリピリと痛んだ。

